緑の風 JREU TIMES

JR東労組（東日本旅客鉄道労働組合）
東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
JR新宿ビル13F　〒151-8512
電話　03-3375-5740(代)
発行人 山口浩治　編集人 湯ノ目亜矢子
月1回発行／一部20円
（組合員の購読料は、組合費に含む）
2019年6月20日
第698号
JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
http://www.jreu.or.jp/

第38回定期大会スローガン

1.JR東労組の存亡をかけ、未来を切り拓くために、12地本が総団結し、全組合員と共に組織の信頼回復と強化・拡大を実現しよう!

1.スト権に頼らない、組合員と共に歩むJR東労組をつくろう!

第28回情報コンクール受賞機関のみなさん

組合員表彰のみなさん

決定事項

- ●スローガン　【賛成60、反対23、棄権0】承認
- ●一般経過報告【賛成61、反対22、棄権0】承認
- ●2019年度運動方針【賛成60、反対23、棄権0】承認
- ●2019年度予算【賛成62、反対17、棄権4】承認
- ●規約・諸規則の一部改正について【賛成60、反対23、棄権0】承認
- ●制裁審査委員会の設置
  - ・吉川英一君　…　賛成多数で可決
  - ・黒澤純一君、阿部正明君、金井正明君　…　賛成多数で可決
  - ・村田俊雄君　…　反対多数で否決
- ●大会宣言　賛成多数で承認

修正動議

- ・運動方針(案)の不当労働行為に抗するたたかいに関する修正動議
  【賛成22、反対57、棄権4】否決
- ・運動の基本(案)運動の具体策に関する修正動議
  【賛成21、反対57、棄権5】否決

来賓あいさつ（要旨）

JR総連　榎本執行委員長

JR総連は6月3日に第35回定期大会を開催し、すべての議案を承認していただきました。JR東労組において、一部の指導者による方針決定を守らない動きについて、報告を受けております。機関決定した方針を守らないということは、別の要求・別の考え方・別の目的があるということでしょうか。JR東労組の団結と運動を結果として破壊をしているのではないでしょうか。そのように思われても仕方がないと私は思います。

「真実の声」には、JR東労組の追加スローガンに対して「究極の御用組合、組合としての自殺宣言、従って大会スローガンを撤回せよ」など色々と言っているようでありますが、もう少し理性を持って冷静に判断したほうが良いのではないでしょうか。

昭和62年8月7日、当時委員長だった松崎明さんと、当時JR東日本会社の住田社長の間で第一次共同宣言を結びましたが、「労使双方『信義誠実』の原則に従い、『労働協約』に則り、『団体交渉・苦情処理』はもとより『経営協議会』の場を最大限に活用し、あくまで平和裡に労使間の話し合いにおいて自主解決を図る」と書いてあります。その後の第二次共同宣言、第三次共同宣言や21世紀労使共同宣言においても同様です。JR東労組のこの32年間の運動は、そのことを基礎に労使関係を築き上げてきました。

JR東労組あってのJR総連です。各産別、連合、交運労協から、これ以上惨めな組合だと言われないように、組織強化・拡大を図るための意思統一を確認できる大会にしていただきたいと思います。

仲間と共に新生JR東労組運動を推し進めよう!

中央執行委員長あいさつ（要旨）　山口 浩治

職場で苦闘している組合員の顔を想い浮かべて打ち出した追加スローガン

中央本部は6月6日に臨時第20回中央執行委員会を開催し、「スト権に頼らない、組合員と共に歩むJR東労組をつくろう!」の追加スローガンを決定しました。このスローガンに対して「御用組合か?労働組合が労働三権を放棄する日が来たのか?」という反応がありましたが、全くお門違いの見方です。私たちは19春闘をたたかい、多くの教訓を得ると共に、昨年は3回の大会を行い、代議員の議論によって運動方針を決定してきました。その過程を振り返れば、なぜこのようなスローガンを打ち出すのか理解できるはずです。

18春闘大敗北を正しく総括し同じ過ちは繰り返さない

追加スローガンを打ち出した一つ目の理由は、組織現実から出発して、組合員が離脱していった理由を明確にし、同じ過ちを繰り返さないようにするためです。

19春闘は、18春闘の大敗北を決定づけた根拠の一つである「闘申1号」を忠実に振り返る実践を積み上げました。そして「闘申1号」は18春闘大敗北を決定づけた交渉だったということです。「格差ベア永久根絶」方針も「闘申1号」の議論からすれば、到底実現できない方針であり、労働組合の要求の範囲を超えるものです。出口のない方針を労働組合として掲げることは、組合員に責任を持つということと相反することであり、やってはいけないことです。しかも、掲げた方針を貫徹することもなくスト権行使に突き進んでいったことで、目的と手段が真逆になってしまいました。

18春闘のたたかいについて「慎重論」がありました。しかし、少数意見を封殺し、「たたかいを牽引する」という耳障りのいい言葉で無理矢理に組合員を組織化する「強者の論理」を展開しました。そのことによって、この組織からの離脱を余儀なくされました。その仲間たちにJR東労組は変わったと感じ、もう一度旗のもとに結集していただくために打ち出したスローガンでもあります。

18春闘の大敗北の総括と、その反省の議論に踏まえた19春闘の総括に区切りを付け、現実に踏まえた組合員の声を原点とするJR東労組運動を前進させていかなければなりません。

新生JR東労組運動が実感できる組織を確立しよう

二つ目の理由は、私たちは「新生JR東労組運動」を掲げてたたかい続けていますが、組合員が「本当にJR東労組は変わった」という自覚を持ち、離脱した方たちの再結集につなげていくためです。

昨年行われた3回の大会は、組合員の声をもとに、JR東労組がどのような道を進むべきなのかを決定しました。そしてその先には、組織拡大・強化という重要な課題を据えて、その実現のための議論を行ってきました。

苦難の中開催した昨年の3回の大会での決定事項は極めて重要なものばかりであり、全組合員のたたかいの指針とするべきものです。大会で決定された以上、全組合員が決定事項を守るというのはごく当たり前ですが、未だに実践できない指導部がいることも事実です。さらには「真実の声」などを装い、批判を繰り返す組織破壊者がいるのも事実です。

私たちは、何度も組織問題を乗り越えてきました。そのたびに多くの犠牲を払い、苦しみを味わってきました。組織内に別の組織があってはならないし、組織破壊者とは徹底して闘わなければなりません。そのためにも今大会の決定事項は極めて重要です。

組合員と共に、自分たちの力で歩むJR東労組をつくり上げよう

三つ目の理由は、組織が「自分の力」でたたかうためには組合員と共に歩むことであり、方針ありきではなく指導部の強化を通じた組合員の強化を実現するということです。

追加提起したスローガンには、私たちへの大きな矢印も含まれています。JR東労組が置かれた現状は、社会的に見ても極めて厳しいと言わざるを得ません。組織に対する信頼を一刻も早く取り戻さなければなりません。嘘・偽りからの決別はもとより、時代認識を正しく行うこと、指導部の強化を通じて組合員を高め、自力でたたかい抜くことです。

すべて会社が悪いと宣伝し、組織内のみならず「嘘、ごまかしの組合」と言われ、組合員からも不信感をもたれる状況は、これまでの私たちがつくり出してきた現実です。だからこそもう一度、職場現実を正しくつかみ、組合員と共に自分たちの力で信頼回復をしていく以外に再生の道はありません。

「スト権に頼らず、組合員と共に歩むJR東労組運動をつくろう!」は、私たちのたたかいで組合員が減少してしまったことの悔しさ、二度と組合員の信頼を失わせないという決意、そしてこれからのJR東労組運動の指針が込められたスローガンです。危機感と希望を併せ持ったこのスローガンを自分のものとして、活動の基盤をつくり上げていこうではありませんか!

施策に向き合い安全で風通しの良い職場をつくり出す

特に現在、ジョブローテーションの議論に多くの組合員の意識が集中しています。

この施策は「変革2027」が施策のベースになることは明らかです。中央本部として底辺に流れる会社の考えを押さえた上で、今後予測される職場の変化を先取りし、「安全性の低下を招かないようにすること」「年功賃金制度と雇用確保」「労働条件の向上と組織の強化・拡大」の3つの柱を掲げ、解明交渉に臨んできました。

私たちは大きな転換点に立っているといえます。AI・IOTという産業構造の変化、いわゆる外的な変化と、経営資源の振り向け方を変えたJR東日本の内的変化に対して、労働組合としてどのように立ち向かっていくのかが問われているということです。変化を受け入れず、原地原職にこだわり続ければ、国鉄改革における国労がそうであったように完全に時代から取り残されていきます。

いかなる施策でも安全性の低下を招いてはならないし、特に人間の不安全行動のベースとなる現場で現れる行動の特徴や、初心者に現れる行動、熟練者に現れる行動などを把握し、様々な職を経験することにより起きる可能性のあるエラーや「判断、行動、記憶の間違いによるヒューマンエラー」を組織としてどのようにマネジメントに反映させていくかなどの仕組みづくりも求めなければなりません。

参議院選挙に向けて

7月に行われる参議院選挙は、選挙区では各地方と関係の深い候補を応援し、比例区では護憲ということを判断基準として立憲民主党を応援しようと提起してきました。

このほど立憲民主党の藤田幸久さんより応援の要請がありました。藤田さんは交運労協における政策推進議員懇談会メンバーでもあり、平和憲法、民主主義、立憲主義を守り抜くという姿勢を強く持っている方です。

今回は、連合やJR総連との関係もあり、推薦ではなく応援という形で支援していきます。

仲間と共に茨の道を歩み難局を切り拓こう

組合員の離脱を生み出した多くの誤りを真摯に反省し、改めるところは改め、JR東労組全組合員、JR東労組から離脱を余儀なくされた方たち、JR東労組を取り巻く多くの仲間たちの信頼を取り戻し、労働組合らしく組合員の力で茨の道を歩み、難局を切り拓いていこうではありませんか。

主な発言（要旨）

18春闘を正しく総括し、仲間と共に組織強化・拡大のたたかいを推し進めよう!

◆組織現実を主体的に捉えた追加スローガンである。18春闘総括で大敗北の立場を鮮明にして、嘘とごまかしなく組合員に対して指導部の誤りを明らかにし、組合員と共にJR東労組を再生させる実践をしている立場であるから、受け止めることができる。（盛岡）

◆追加スローガンは反対。第1の根拠は、議論が不十分だからである。第2の根拠は、「ストライキに頼らない」は、労働組合が掲げるスローガンではない。追加スローガンは、ストライキ方針に反対して脱退した人に、ウェイトを置いて掲げられていると認識した。

もっと大切にしなくてはならないのは、現在所属している組合員がこのスローガンをどう見るのかということだ。スト権確立は、交渉力を強化する有効な手段であり、17春闘、18春闘で、格差ベアを行わせなかった成果もある。（東京）

◆職場の仲間は、自分たちの現実を見つめ直し、一つひとつの取り組みに泥臭く立ち向かい成果を挙げている。また、組合員の現実から逃げずに向き合っていくことを自覚してきた。私はこのたたかいこそが追加スローガンの意義だと実感する。労働者の権利を捨てるとは誰も言っていない。労働者の武器は団結力である。組合員はストを望んでいなかった。JR東労組は見切りをつけられたということである。このことに向かわなければ再加入は実現しない。根本は18春闘大敗北総括であり、現実を見ているか否かである。（横浜）

◆水戸、東京、八王子の脱退者から話しを聞くと「職場では脱退者は犯罪者扱い」「口もきけない」「戻ろうと思えるところではない」「職場で踏ん張っていたが『たたかえ』『たたかえ』しか言わないので、ついていけないので辞めた」「謝って認めてくれれば辞めなかった」などの声が出されている。新生JR東労組は、このような方の声に耳を傾けて再加入方針を実践することである。（千葉）

施策に向き合い、安全で働きがいのある職場を私たちの手でつくり出そう!

◆電気部門の「変革2022」の施策では、職場集会で離脱を余儀なくされた仲間にも声をかけ、職場集会を通じて意見集約を行った。何度も議論を積み重ね、施策を自分たちからどうつくり出していくのかという発想に辿り着いた。そして、このたたかいの教訓は施策についての議論、運動を通じて組織拡大につなげていったことだ。（盛岡）

◆情勢を理解した上で、絶対反対ではなくライフサイクルの深度化のように議論し、組合員が安心して働ける施策をつくるしかない。（千葉）

◆労働組合として守るべきものは雇用と安全であり、反対だけでは何も守ることはできない。ジョブローテーションに対して、反対という立場ではなく、仲間との議論を通じ、我々からつくりだすことを基本に据え向き合っていく。（盛岡）

◆脱退を余儀なくされた方からも意見集約がしやすいように、地本独自のアンケートを取り組んだ。普段意見を言えない組合員の声を拾うことにこだわった。組合員の声を封殺、つまり黙認させるだけでは本当の組織力とは言えない。（横浜）

発言者（敬称略・順不同）
其田洋輔（盛岡）、鵜ノ澤信一（千葉）
田中正文（東京）、椀田優一（横浜）

大会に寄せられたメッセージ（敬称略）

北海道旅客鉄道労働組合
　中央執行委員長　鎌田　寛司
ジェイアール東海労働組合
　中央執行委員長　木下　和樹
ＪＲ西日本労働組合
　中央執行委員長　菅野　武男
日本貨物鉄道労働組合
　中央執行委員長　高木　康之
鉄道総合技術研究所労働組合
　執行委員長　間々田祥吾
ソフトバンク労働組合
　執行委員長　鈴木　建行
ホテル聚楽労働組合
　執行委員長　斎藤　敏彰
鉄道情報システム労働組合
　執行委員長　髙橋　岳志
ＪＲ総連・各単組賛助団体
株式会社鉄道ファミリー
　代表取締役社長　小黒加久則
こくみん共済 coop 関東総括本部
　統括本部長　廣田　政巳
労働調査協議会

ご来賓のみなさま（敬称略）

ＪＲ総連
　執行委員長　榎本　一夫
　執行副委員長　田城　郁
　組織・共闘部長　熊谷　茂
　総務・国際部長　山田　知

ＪＲ東労組本部ＯＢ会
　会長　奥山　光昭
　事務局長　植松　健

大会を進めていただいた議長団
秋田地本・泉代議員（左）、横浜地本・熊澤代議員（右）